

令和元年度研修会

全国障害者スポーツ大会 ボッチャ競技 『ルール・審判法について』

講師 大阪ボッチャ協会 副会長

日本ボッチャ協会公認A級審判員 内藤 卓也 氏

令和2年2月16日(日)、ファインプラザ大阪において、大阪障がい者スポーツ指導者協議会の研修会を行いました。

2021年の全国障害者スポーツ大会より、ボッチャ競技が正式種目になりました。それに伴いルール・審判法について、講義・実技を行いました。

① 競技用具

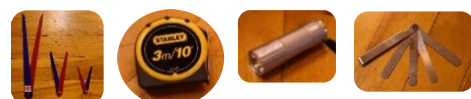
◆ボール
赤色ボール 6つ
青色ボール 6つ
白色の目標球(ジャックボール) 1つ

◆ランブ

自力で投球できない座位の人が使用する。照準器や発射装置はつけることができない。操作はアシスタントが行う

② 審判用具

◆パドル
・投球指示をする
・点数を示す
◆ボール間計測具
(キャリパー・メジャー・LEDライト・すき間ゲージ)

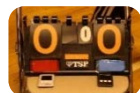


・ボールとボールの距離を測り、勝敗を判定したり、点数を計測したりする



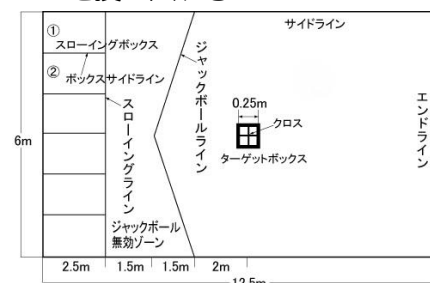
◆計時用具

・選手の投球時間を計測する
◆スコアシート
・出場者を確認する。点数を記録する



③ 会場

◆コート 12.5m(縦)×6m(横)
・投球ボックスからコートに向けてボールを投げ入れる



④ チーム構成

◆男女の区別はない。
◆選手①(立位)、選手②(座位)
→2人1組とし、どちらか1名をキャプテンとする。
◆座位の選手は、障害の状況に応じて、競技アシスタントを使用できる。
◆試合に出場するチームには、コーチを1名配置することができる。1エンドと2エンドの間に選手に助言することができる。

⑤ 審判団の役割

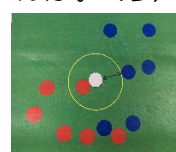
◆審判(レフェリー)
・試合を進行する
・勝敗を決定する
・反則を判定する
◆線審(ライナー)
・投球ボックス周辺の違反をチェックする(審判から見えないところ)
・ボールの回収
・必要に応じて選手の移動支援をする
◆計時(タイマー) 時間の計測
・スタート…審判がパドルを計時に示した時
・ストップ…投げたボールが止まった時またはコートの外に出たとき
・スコアシートに記録する
・残り時間の宣言(残り時間のコール)
1分前 : ワン ミニット
30秒前 : サーティ セカンズ
10秒前 : テン セカンズ
0秒 : タイム

⑥ 試合の準備

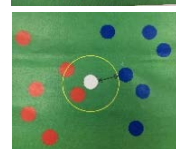
◆投球の順序を決める(コイントス)
・両チームのキャプテンが行う
・勝った方が赤/青を選択できる
先攻 : 赤 後攻 : 青

⑦ 得点の判断

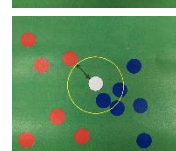
・ジャックボールに近い方が勝ち
負けした方の色のジャックに最も近いボールよりも、勝った方の選手のボールがいくつ入っているかを判定



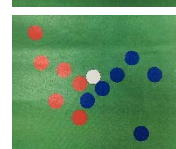
赤の勝ち
1点(ワン レッド)



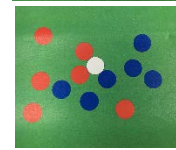
赤の勝ち
2点(ツー レッド)



青の勝ち
3点(スリー ブルー)



同じ距離
赤 1点、青 1点
(ワン レッド・ワン ブルー)



同じ距離
赤 2点、青 1点
(ツー レッド・ワン ブルー)

・ファイナルショット制度

2エンドが終了して、同点だった場合の延長戦 → 代表者1名による1球勝負(キャプテンが投球) → ジャックにより近いボールを投球したチームの勝利



実技の様子



大阪障がい者スポーツ指導者協議会

協 議 会 だ よ り

編集・発行 大阪障がい者スポーツ指導者協議会 広報部

令和2年3月1日 第83号

<http://osaka-adspo.org/>

大阪障がい者スポーツ指導者協議会 活動案内の流れについて

大阪障がい者スポーツ指導者協議会では、公認障がい者スポーツ指導員養成講習会(初級)を受講し、講習会修了後に(公財)日本障がい者スポーツ協会に登録された方を対象に下記の流れにて案内を送付致します。

(初 級)

公認障がい者スポーツ指導員養成講習会を受講します



修了後、希望される方は、日本障がい者スポーツ協会に資格認定料と登録料を納付します。
(講習会修了後60日以内)



♥日本障がい者スポーツ協会に、毎年度、更新手続きが必要です。
更新の場合は、登録料のみです。日本障がい者スポーツ協会に納めた登録料の一部が、都道府県へ活動助成金として分配され、大阪障がい者スポーツ指導者協議会の運営を行っています。

♥日本障がい者スポーツ協会に登録し、活動地を大阪とされた方は、大阪障がい者スポーツ指導者協議会に自動登録されます。
登録し、案内を希望される方には大阪障がい者スポーツ指導者協議会より情報提供申込書を送付します。①ボランティアの案内、②研修会の案内、③協議会だより 欲しい情報に○印を付け返送してください。

毎年3月に、大阪障がい者スポーツ指導者協議会の年次総会の案内と次年度の情報提供申込用紙の送付を致します。毎年度、情報提供申込の更新手続きが必要です。

※例) 2020年度登録の有効期限

(2020年4月1日~2021年3月31日)

障がい者スポーツ指導員養成講習会(初級) 修了後、活動案内の流れ

例) 2020年度(2020年4月1日~2021年3月31日)

	大阪市の場合	堺市の場合
2020年 4月	例年7月を予定 ↓ 講習会修了後 ↓ 日本障がい者スポーツ協会に、資格認定料と登録料の納付	
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
2021年 1月	希望される方には、 ① ボランティアの案内 ② 研修会の案内 ③ 協議会だより を送付します。	例年1月を予定 ↓ 講習会修了後 ↓ 日本障がい者スポーツ協会に、資格認定料と登録料の納付
2月		
3月		
2021年 4月	更新手続きが必要 (登録料のみ)	希望される方には、 ① ボランティアの案内 ② 研修会の案内 ③ 協議会だより を送付します

【参加レポート】資格取得者に求められる目標を整理できた機会 ～2019年度中級・上級障がい者スポーツ指導員育成研修会が開催されました～

令和2年1月11日(土)から12日(日)に、大阪市長居障がい者スポーツセンターにて「2019年度中級・上級障がい者スポーツ指導員育成研修会」が開催されました。

この研修は、今年度から初めて開催される研修会であり、障がい者スポーツ指導者協議会指導部会が中心に企画をした研修として開催されました。当日は10名余りのスタッフとともに、参加者は全国から来場、青森から長崎まで地域で活動する指導者が集合しました。

研修会は2部構成となっており、初日の午前中は参加者全員での講演会、初日の午後と翌日の2日目は、事前に推薦申請を受けたものが受講する方式で、初日参加者46名・2日目参加者42名が参加し、府内からは8名の参加がありました。なお、参加にあたっては、自分が活動している地域における障がい者スポーツ指導にかかる事前課題を提出し、研修資料として活用しました。

〔初日11日・午前〕 参加者全員受講

高槻市にある新阿武山病院の院長 岡村武彦さんの精神障がいの理解の講義が行われました。「精神障害」や「医学的見地の説明」からでの講義ではなく、ひとりの青年がこれまで歩いてきた生活内容とスポーツへの参加を行なう「事例紹介」の切り口からお話を行なわれました。また、サッカーが好きな医師の立場も踏まえて、スポーツを通じた精神障がい者のサポートの話をいただきました。



- ・プレーヤーに導きたい結果は何か。自分の指導の根底にある信念は何か。それについて指導の哲学を言葉で表すこと。
- ・日本障がい者スポーツ協会の掲げる公認指導員の指導者像と自分の考えを比較して書き留める。

②指導者としての課題を整理する

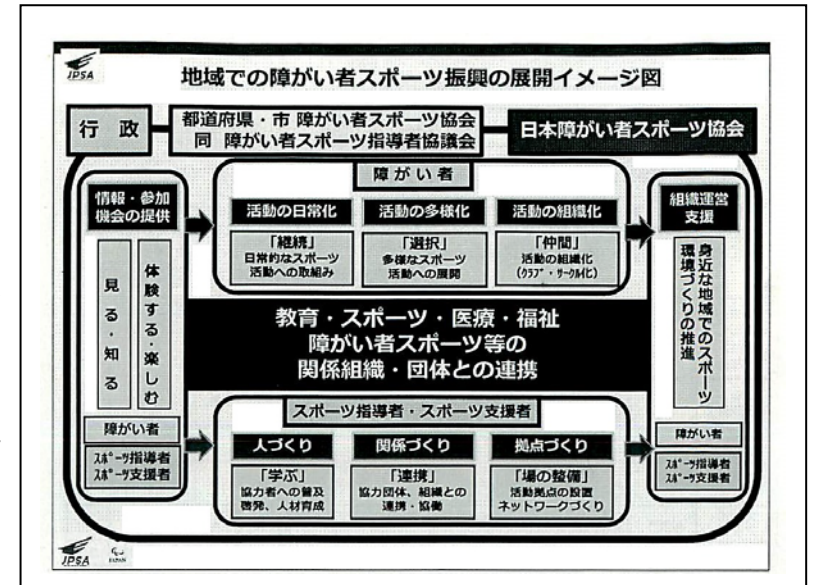
- ・日常から直面している指導上の課題はなにか。課題のグループ化を図ってみる。

③議論の結果をボードに貼り、各グループから意見発表し初日は終了。

〔2日目12日・午前〕 推薦者のみ受講

・まず最初に、「わが国の地域における障がい者スポーツ振興の現状と課題」と題して、日本障がい者スポーツ協会の山下様からご講演いただきました。その後、取り組み内容として、和歌山県の協議会の津村会長と山口県の協議会の坪井様から事例発表がありました。

- ・続いてグループワークとして、昨日の作業の結果を、そのまま使用し、昨日とグループ区分変更して議論を再開しました。



④指導環境を整えるには

- ・事前の提出課題を集約した資料集を活用し、組織的環境、インテグリティなど6つの項目に再分割して議論。



- ・議論した結果を「KJ法」にて、フィッシュボーン(魚の形の図形)で図表化して、書き出して見える形にし、内容を貼りつける作業。手元資料として、事前課題提出の資料集を活用。

⑤作成したフィッシュボーンについて、各グループから意見発表し研修終了。

- ・なお、研修までに提出した事前課題については、参加者が日常の障がい者スポーツの活動の中で、各指導員の現状、地域の課題、必要な支援、各府県の行政部局との連携の実態等が記載され、活動を行なう実態と課題が浮かび上がり、研修を進める中で有効な資料でもありました。

〔研修を終えて〕

- ・令和2年1月31日現在、障がい者スポーツ指導者の有資格者は全国で26,917名、そのうち上級資格保持者は860名(大阪府内は88名)、中級資格保持者4,016名(府内は414名)です。
- ・今回の研修参加者は、資格対象者から比べてほんの少しいましたが、今回の受講者が今回の議論方法や意見交換を習得し、各府県で周知することにより、さらなる障がい者スポーツ指導者の資質の向上に繋がるものと感じました。今回大阪で行なわれましたが、次からは全国数か所での実施が出来るならば、さらに向上するのではと感じるとともに、まだまだ、障がい者スポーツ指導者として取り組む課題や内容、そして活動の幅が多いことも再認識した研修会でした。(広報部 永島久義)

